

## 透視像

江戸の上水

初芝 澄雄

昨年の春頃、新宿御苑の新宿門から、大木戸門の外側にある散策路に水路が作られました。説明板によると玉川上水の再現とあります。そこで、平成十五年の水道ニュース一号を見ますと、本郷に東京都水道歴史博物館というのがありましたので、玉川上水の事を知るために、此処を尋ねてみることにしました。

場所はJRお茶の水駅からですと、医科歯科大と順天堂大の間の道を進みます。本郷二一七―二ですから十分弱で歩いて行けます。外堀道を行くと順天堂医院の裏側に当たる所になります。一階が受付と近現代水道の説明階、二階が江戸上水の説明階とに分かれています。発掘された木樋、上水井戸枠などが沢山展示されています。そして館の裏手は本郷給水所公苑になっていて、神田川分水路の工事

中に発掘された神田上水遺跡の一部が移築復元されています。上水の石樋などは、本物を見ないと実感されない事を痛感しました。

この公苑は散策路としても十分な広さを持つています。以前スペイン、マドリドの郊外セゴビアで、巨大なローマ水道、それを昭和の代まで使われていたという巨大遺跡を見学した時の事を思い出しました。そして意外であったのは、欧州などの上水と異なっており江戸時代の上水は、唯一下水設備を持っていたとの事です。そして淀橋浄水所は日清戦争後の一八九八年、通水を始めたのだそうです。話は変わりますが、私は東京医大でするので、この淀橋浄水所の貯水池を大学院の窓から足下に眺めていたのです。話は更に飛びますが、江戸期の小石川上水(後の神田上水)には、上京して来た芭蕉が此処で働いていて、後に俳句が有名になって、深川に移っていたとの事でした。

## 編集後記

編集部 (α)

東日本を強襲した巨大地震、M9.0という観測史上最大の烈震と津波の襲来は、1か月後の今も復興への道を阻んでいます。加えて福島原発事故による周辺住民の強制退去。いつになったら正常な暮らしに戻れるのでしょうか。

私たち会員にも痛手を受けた方がおられます。未だに続く大きな余震、心やすまる時がないのでは……そして私たちができることはと、いま日本中が声援を送っています。私たちも、その一助にと募金活動をしました。

さて、医学会総会が正常に開かれる予定で、本誌も準備を進めていました。一転して再編集、発行予定日が大幅に遅れました。ご海容ください。ソシアルイベントの幕引きはまだ済んでいません。6月の総会でなんらかの見通しがあるものと思いますが、それを乗り越えての各部のより活発な活動を期待します。